

第2章

本県スポーツの現状と課題

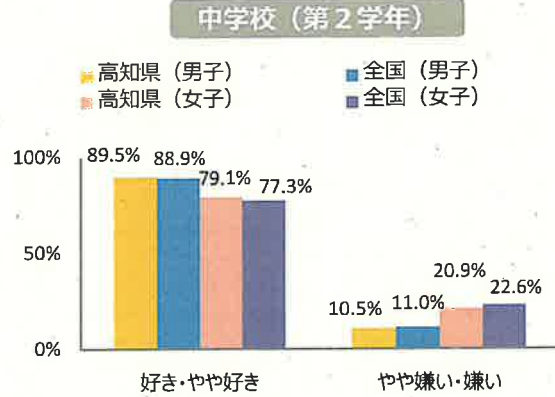
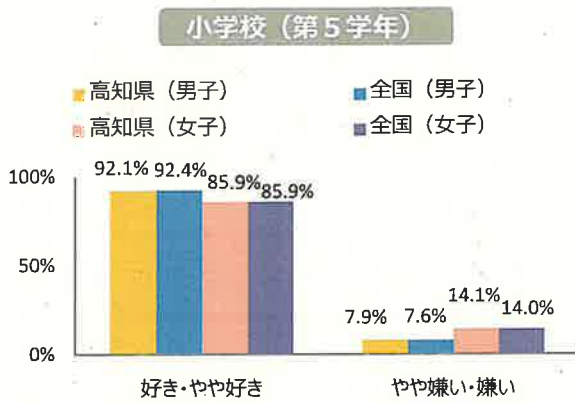
■子どものスポーツ

【現状・課題】

- 運動やスポーツが好きな子どもの割合は男女とも全国よりは少し高いが、男子よりも女子の割合が低い。
- 小・中学校男女ともに体力合計点が全国平均を上回っている。全国順位は、小学校男子が12位、小学校女子が17位、中学校女子が18位となり、それぞれ過去最高で、中学校男子は26位となっている。
- 1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合は、男子よりも女子が高い。また、中学生の割合が全国と比較して高く、中学生の女子は18.2%が運動習慣が十分に定着していない。
- スポーツ少年団や運動部活動に所属する子どもが減少傾向にあり、令和3年度から令和4年度にかけての減少は顕著である。

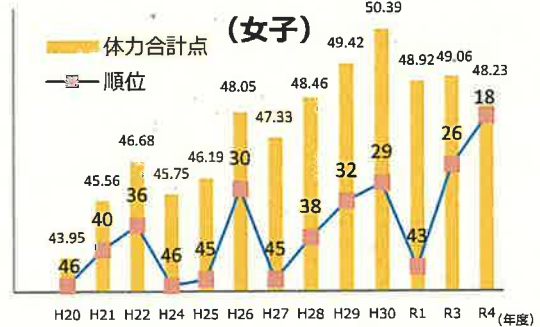
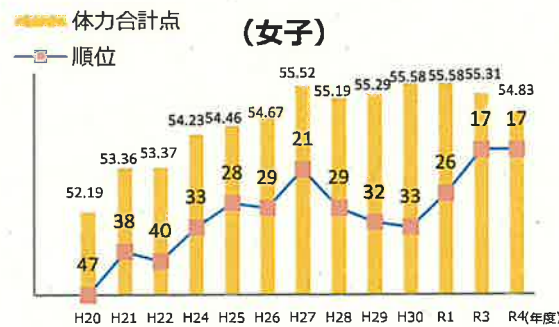
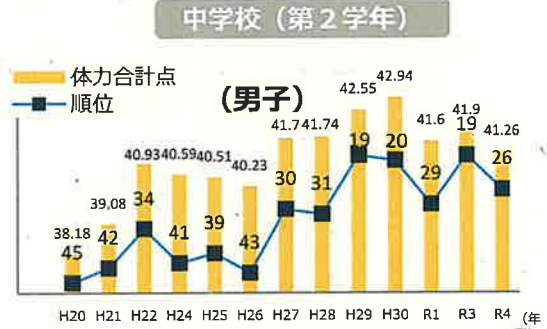
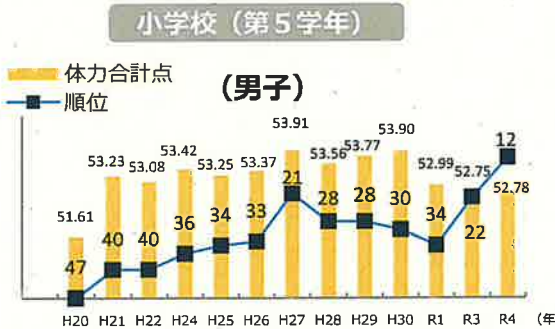
○運動やスポーツが好きな子どもの割合

※R4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査



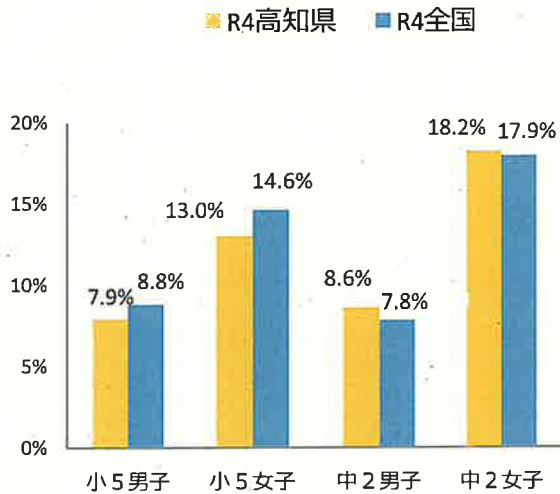
○子どもの体力

※R4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査



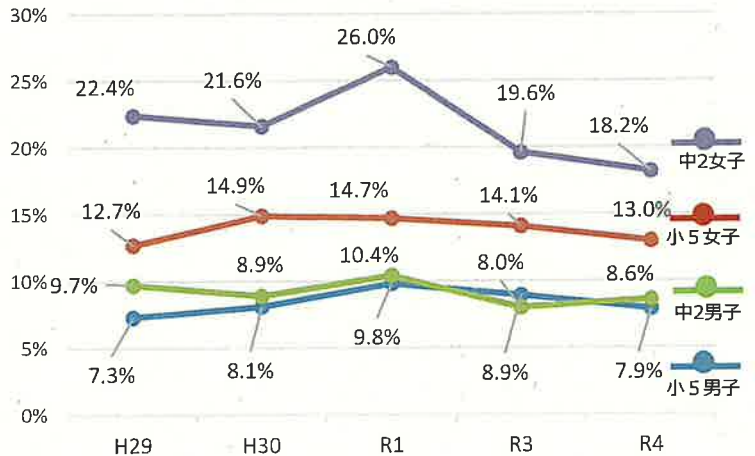
本県スポーツの現状と課題〔地域スポーツ〕

○1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合

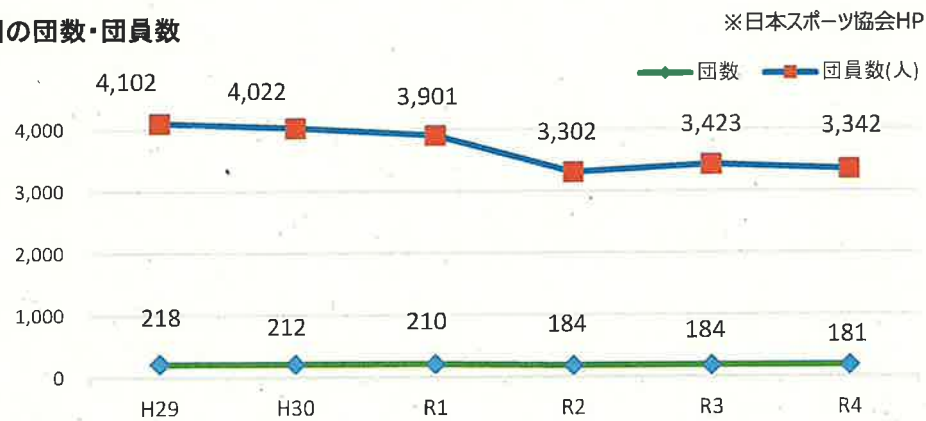


※R4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査
 ※R2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、調査不実施

県内の総運動時間60分未満の推移



○スポーツ少年団の団数・団員数



○中学校の運動部活動数・部員数



本県スポーツの現状と課題〔地域スポーツ〕

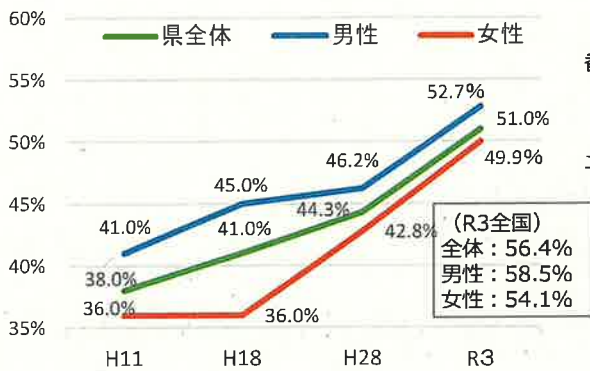
■地域スポーツ

【現状・課題】

- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較するとまだ低く、性別や年代、地域によって差がみられる。
- スポーツのボランティア活動については、「すでに行っている」者の割合は2.2%と低く、「あまり行いたくない」、「行うつもりはない」といった否定的な意見の割合が6割を超えている。
- スポーツ観戦に関心がある者の割合は74.8%となっており、前回調査から増加している。
- スポーツを支える有資格者は増加傾向にあるが、さらに増やす必要がある。
- 市町村におけるスポーツ活動を支えているスポーツ推進委員は比較的年齢層が高く、人材の確保が懸念されている。
- 健康づくり無関心層や、関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要。
- 市町村でのスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。

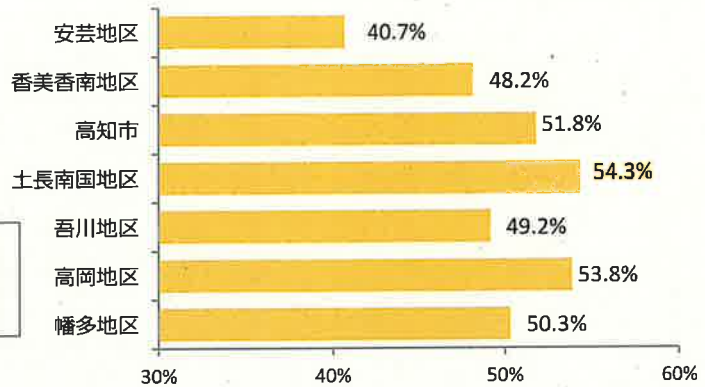
○成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率の推移

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



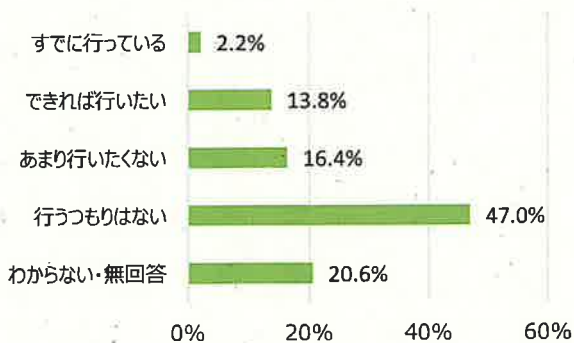
○成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率(地域別)

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



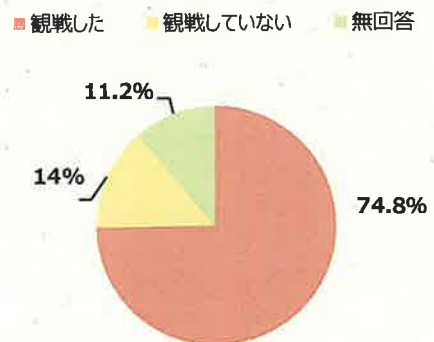
○スポーツのボランティア活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



○スポーツ観戦の状況

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



本県スポーツの現状と課題〔地域スポーツ〕

○主なスポーツ指導者数(有資格者)

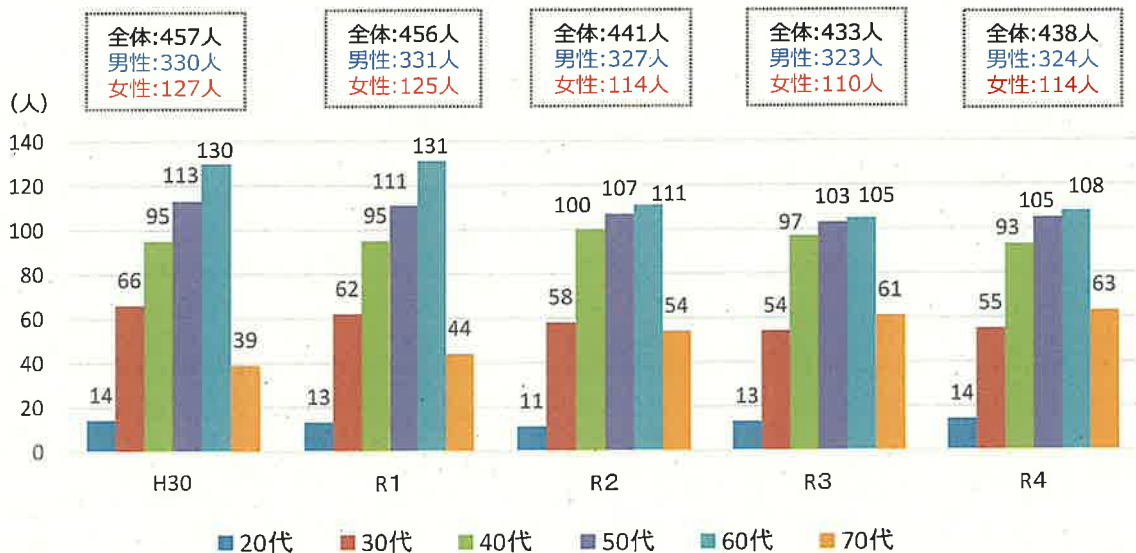
※R4 日本スポーツ協会、日本レクリエーション協会、健康・体力づくり事業財団調べ

(単位:人)

公認団体	資格	取得者数				
		H30	R1	R2	R3	R4
日本スポーツ協会	スタートコーチ	—	—	40	55	132
	コーチ・教師・上級教師	1,240	1,313	1,361	1,371	1,419
日本レクリエーション協会	インストラクター等	673	665	640	583	536
健康・体力づくり事業財団	健康運動指導士	57	55	55	55	56
	健康運動実践指導者	51	49	43	35	35

○スポーツ推進委員 年代別人数

※R4 県スポーツ課調べ



○日常生活における歩数

※R4 県民健康・栄養調査

H28	R4
●20～64歳 男性:6,387歩 女性:6,277歩	●20～64歳 男性:6,210歩 女性:5,960歩
●65歳以上 男性:4,572歩 女性:4,459歩	●65歳以上 男性:4,894歩 女性:4,229歩

○市町村におけるスポーツ振興を行う上での課題

※R4 県スポーツ課調べ

(単位:市町村数)

- ①子どものスポーツ環境の整備・充実 (30)
- ②課題対策を進めるためのスタッフの不足 (30)
- ③課題対策に取り組むための財源不足 (29)
- ④課題の把握や検討する場の設定などの調整役となる人材の確保 (21)
- ⑤財政的な支援だけでなく、県職員や民間事業者による側面的な支援が必要 (21)
- ⑥多分野の関係者が課題について検討・対応する体制が必要 (20)

本県スポーツの現状と課題〔地域スポーツ〕

■障害者スポーツ

【現状・課題】

- 障害者がスポーツ活動ができる場が少なく、高知市周辺に集中している。
- 競技選手として活動している人数（中央競技団体への登録者数）は新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた時期から増加の兆しがみられるものの、まだ少ない。
- 県立障害者スポーツセンターの障害者の利用は新型コロナウイルス感染症の影響から回復の兆しがみられる。
- 障害者のスポーツ活動を支える障がい者スポーツ指導員数はまだ少ない。
- 障害者スポーツへの関心は、「関心がある」と「やや関心がある」者の割合が47.9%でまだ高いとは言えない。

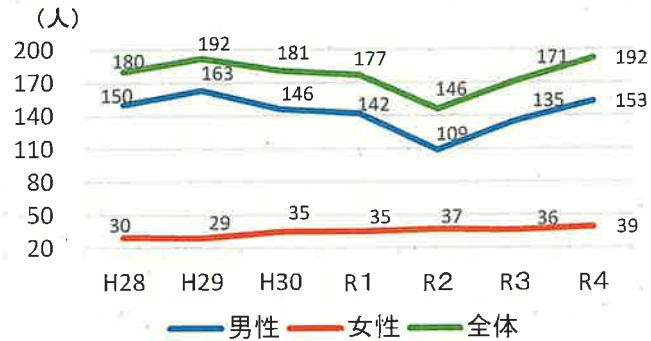
○障害者スポーツ団体・チーム

※R4 県立障害者スポーツセンター調べ



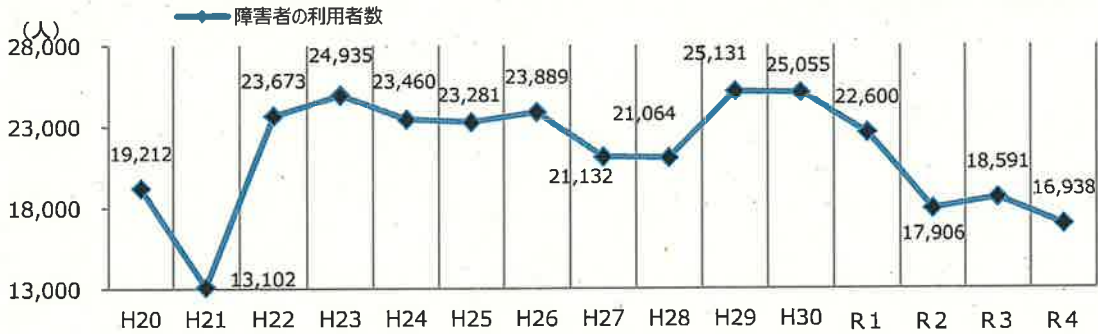
○中央競技団体への登録者数

※R4 県立障害者スポーツセンター調べ



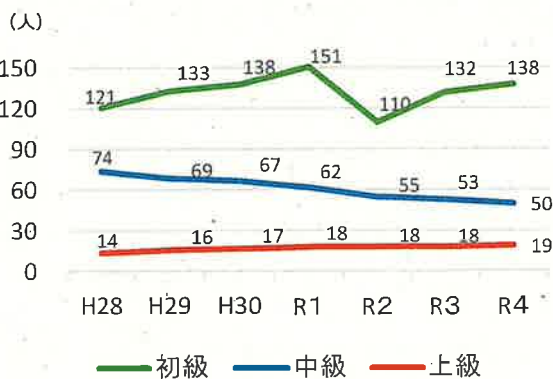
○県立障害者スポーツセンターの障害者の利用者数

※R4 県立障害者スポーツセンター調べ



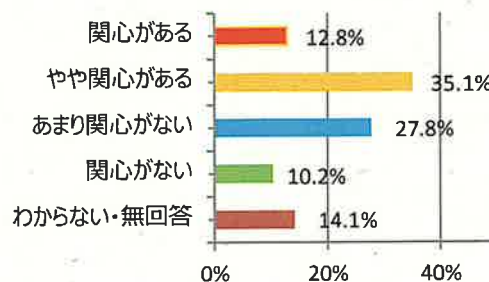
○県内障がい者スポーツ指導員数※

※日本パラスポーツ協会HP



○障害者スポーツへの関心

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査



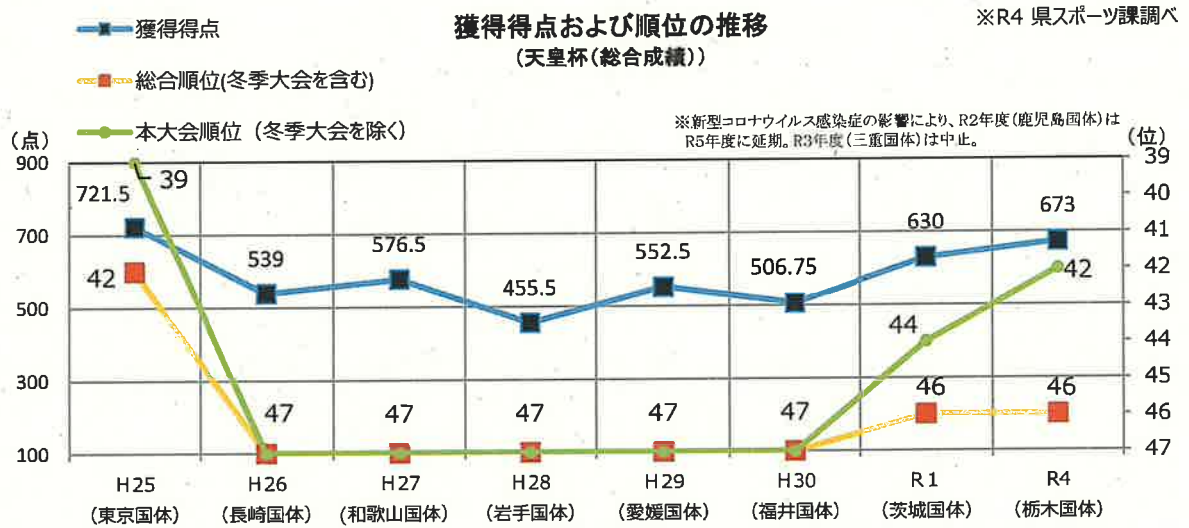
※ R5年4月1日から指導者資格の名称が「障がい者スポーツ指導員」から「パラスポーツ指導員」に変更

■競技スポーツ

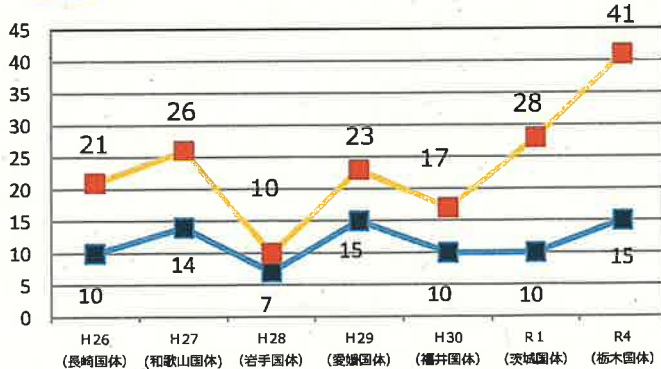
【現状・課題】

- 国民体育大会では入賞数、入賞競技数、入賞種目数ともに着実に増加傾向にあるが、総合順位は下位にある。
- 全国や世界の舞台で優秀な成績を収める選手は育ってきているが、その競技が限定されており、全体的な底上げが必要。
- 子どもの総数に対する子どもの競技人口の割合は少し増加しているが、次代を担う子どもの競技人口の数、割合ともに増やすことが必要。
- 日本スポーツ協会公認の有資格指導者は増加傾向にあるが、より質の高い指導が行われるよう有資格者を増やすことが必要。
- 障害者のスポーツ活動を支援する障がい者スポーツ指導員は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少している。
- スポーツ指導者には、スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人が求められている。
- 高知県スポーツ科学センターの活用は増えてきているが、スポーツ医科学を組織的に活用する競技団体がまだ少ない。
- 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取り組みが県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。

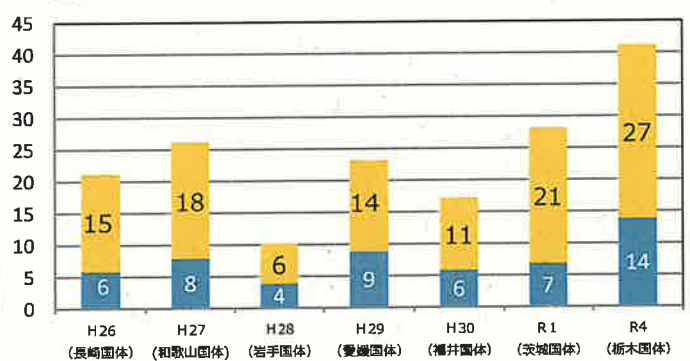
○国民体育大会の成績



入賞競技数及び種目数



個人種目と団体種目の入賞数



本県スポーツの現状と課題〔競技スポーツ〕

○日本代表選手数及び国際大会入賞数・競技数

※R4 県スポーツ課調べ

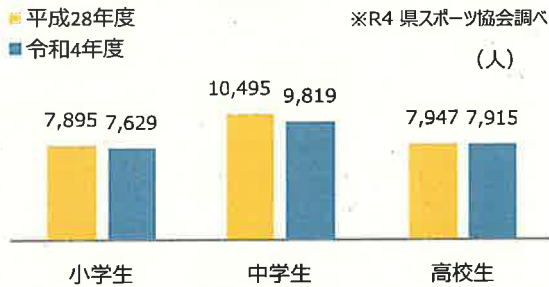
年度	代表選手数	入賞数	競技数
H29	35	20	12
H30	46	28	19
R1	31	16	8
R2	—	—	—
R3	9	7	7
R4	19	11	8

○中高校生の全国大会の入賞競技数

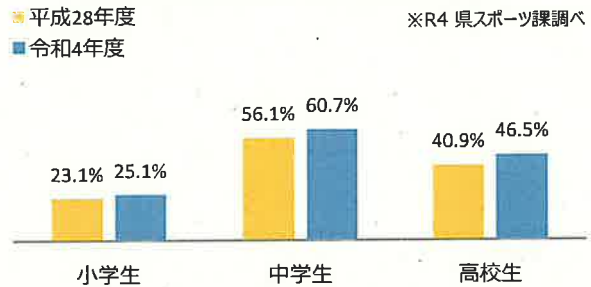
※R4 県スポーツ課調べ

年度	H29	H30	R1	R3	R4
全国中学校 体育大会	6	5	5	6	7
全国高等学校 総合体育大会 (インターハイ)	6	5	8	7	10

競技人口



児童生徒総数に対する競技人口割合



○スポーツ指導者数(有資格者)

※R4 日本スポーツ協会・日本パラスポーツ協会公表資料

(人)

公認団体	資格	取得者数				
		H30	R1	R2	R3	R4
日本スポーツ協会 ・公認指導者	スタートコーチ	—	—	—	55	132
	コーチ等	1,240	1,313	1,361	1,371	1,419
日本パラスポーツ協会 ・障がい者スポーツ指導員※	初級	138	151	110	132	138
	中級	67	62	55	53	50
	上級	17	18	18	18	19

※ R5年4月1日から指導者資格の名称が「障がい者スポーツ指導員」から「パラスポーツ指導員」に変更

○スポーツ指導者に求めるもの

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

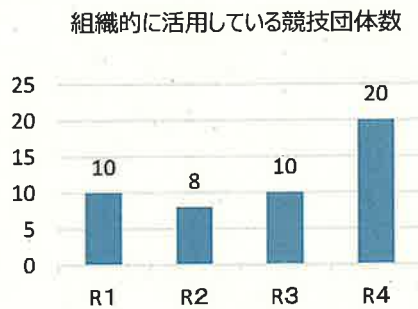
- ①スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくような指導ができる人:68.3%
- ②健康・体力づくりの運動やスポーツの指導ができる人:44.0%
- ③スポーツの医学的知識や技術をスポーツの指導に活用ができる人:35.4%
- ④障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人:29.5%
- ⑤年間を通して定期的に指導ができる人:28.5%

本県スポーツの現状と課題〔競技スポーツ〕

○高知県スポーツ科学センターの活用状況

※R4 県スポーツ課調べ

※R4 県スポーツ課調べ

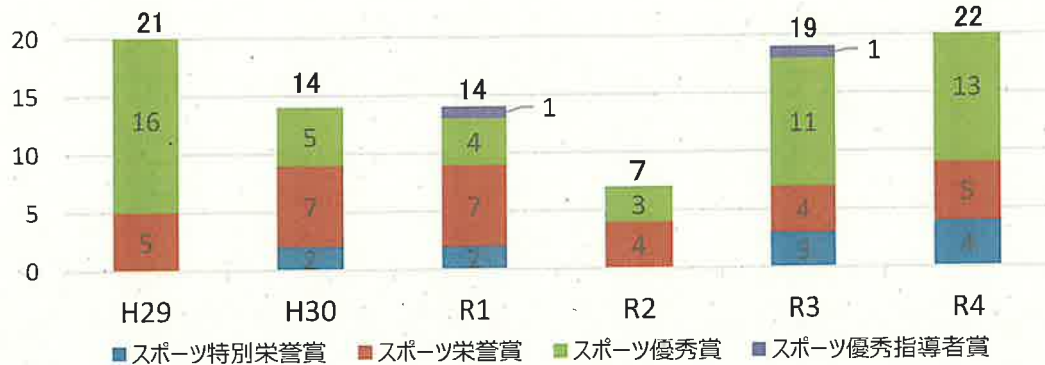


サポート内容別利用者数 (人)

サポート内容	R1	R2	R3	R4
専門体力測定	514	466	498	1,422
コンディショニング	461	713	821	3,304
メンタルトレーニング	41	106	4	356
栄養指導	168	62	122	631
パフォーマンス分析	75	169	84	421

○高知県スポーツ顕彰受賞数の推移

※R4 県スポーツ課調べ



- ・スポーツ特別栄誉賞：オリンピック、パラリンピック、デフリンピック、世界選手権で第1位から第3位までの入賞者等
- ・スポーツ栄誉賞：上記以外の国際大会で第1位から第3位までの入賞者等
- ・スポーツ優秀賞：国民体育大会等の全国大会で第1位となった者
- ・スポーツ優秀指導者賞：特別栄誉賞受賞者の指導に特に貢献があった者

○タレント発掘・育成事業の現状(高知くろしおキッズ)

※R4 県スポーツ課調べ

※高知くろしおキッズとは、様々なスポーツの分野で高知県内の将来有望なタレントを発掘し、ジュニアアスリート(小学校4年～6年)を育成するプログラム

項目	成果
修了生	H22年度からR3年度 延べ219人
H27年からの主な成績	国際大会出場者数：合計6名 主な成績： ・全国小学生陸上交流大会 女子100m優勝(大会新記録) ・女子Jr日本代表(ハンドボール) ・女子レスリング全日本Jrオリンピック優勝 ・男子フェンシング(サーブル)インターハイ入賞・卓球国際大会Jrベスト8等
競技種目の転向等	毎年10%程度が種目転向や本事業を通じて競技を始めた

本県スポーツの現状と課題〔スポーツツーリズム・国際交流〕

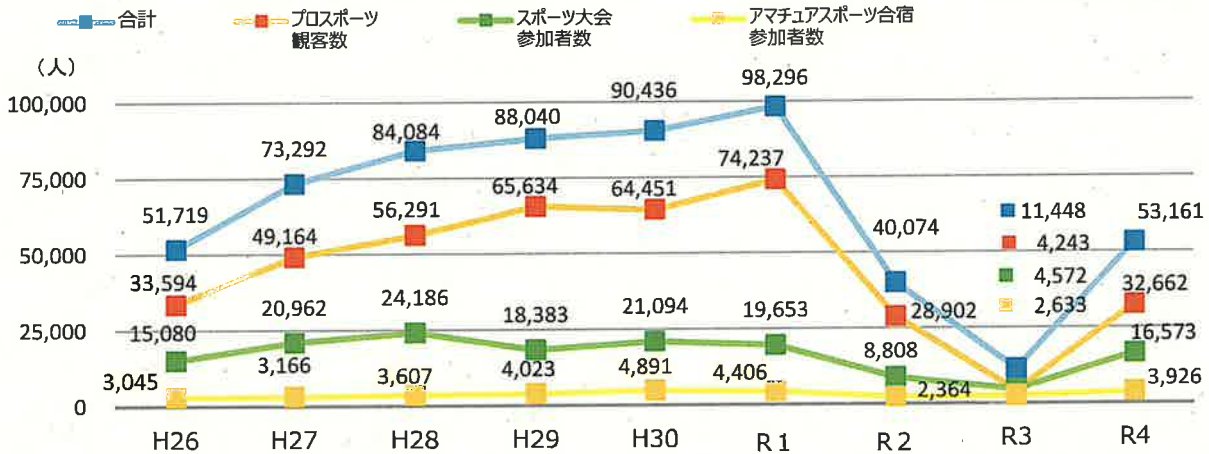
■スポーツツーリズム

【現状・課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいたスポーツによる県外からの入込客数は回復傾向がみられる。
- アマチュアスポーツ合宿は関西圏からの来県が中心となっている。また、一部の競技に集中しているとともに、県内で受け入れる地域が限定的である。

○スポーツ関連イベントによる県外からの来客数

※R4 県スポーツ課調べ



○アマチュアスポーツ合宿の受入れ状況

※R4 高知県アマチュアスポーツ合宿支援事業助成金交付団体の実績



都府県別

合宿団体所在地	合宿団体数	合宿団体所在地	合宿団体数	合宿団体所在地	合宿団体数
大阪	18	岡山	3	神奈川	1
京都	16	徳島	3	新潟	1
兵庫	15	香川	3	三重	1
東京	8	奈良	2	島根	1
愛媛	6	和歌山	2	山口	1
鳥取	5	海外	2	長崎	1
愛知	4	北海道	1		
広島	4	群馬	1		

競技別団体数

競技	回数
サッカー	34
野球	20
陸上	14
ソフトボール	7
バスケットボール	5
カヌー	3
卓球	3
テニス	3
水泳	2
バドミントン	2
ラグビー	2
自転車競技	1
水球	1
バレーボール	1
フットサル	1

■スポーツを通じた国際交流

【現状・課題】

- ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを今後のスポーツ振興やスポーツの国際交流の活性化につなげることが必要。

■交流実績及び連携協定の締結状況

※下線は連携協定を締結した交流

- | | |
|---|---|
| <p>(1)シンガポール</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツシンガポール-高知県バドミントン協会 ②シンガポールスポーツスクール-高知県教育委員会 <p>(2)チェコ共和国</p> <ul style="list-style-type: none"> ①チェコオリンピック委員会-須崎市/高知県カヌー協会 ②チェコカヌー連盟-高知県カヌー協会 ③チェコソフトボール協会-高知県ソフトボール協会 <p>(3)オランダ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①オランダ自転車関係者-宿毛市 ②オランダサッカー関係者-高知県サッカー協会 | <p>(4)オーストラリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ソフトボールクイーンズランド-高知県ソフトボール協会/嶺北高校 <p>(5)トンガ王国</p> <ul style="list-style-type: none"> ①トンガコミュニティ関係者-高知県ラグビーフットボール協会 <p>(6)ハンガリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ハンガリー関係者-土佐町/本山町/須崎市/嶺北高校 |
|---|---|

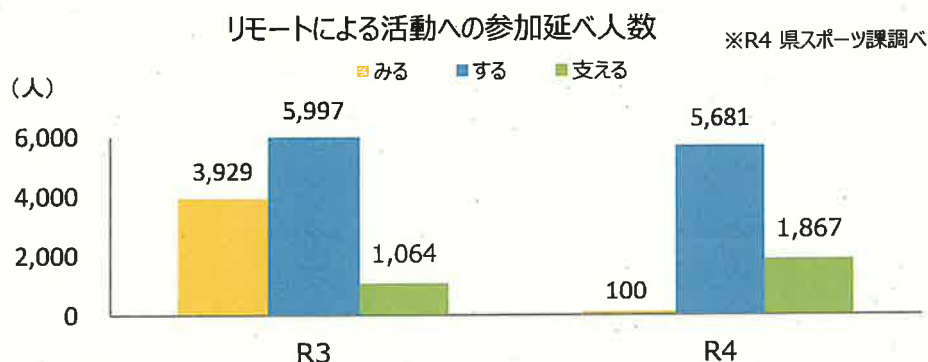
■スポーツにおけるデジタル技術の活用

【現状・課題】

- 県立スポーツ施設や地域スポーツハブの拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にあるが、活用状況に偏りがみられるとともに、より効果的に活用するための手立てが必要。
- 高知県のスポーツ関連サイトの利用者数が少ない。
- ウィズコロナやアフターコロナ社会に対応したスポーツ教室の実施などにデジタル技術の活用が求められている。

○リモートによるスポーツ活動状況

- ※主な活用事例
 ・スポーツ大会の動画配信 ・遠隔地をリモートでつないだスポーツ教室 ・SSCによるスポーツ医科学の研修



○スポーツ情報サイトの運用状況

※R4 県スポーツ課調べ

サイト名	主な機能	利用状況
こうちでスポーツ (H13～)	県立スポーツ施設の予約	サイト上での予約件数:44,069/年
スポーツNAVI (R1～)	イベントや教室、施設の検索	イベント等の更新件数:300/年 ページビュー数 :72,619/年
スポるKOCHI (R4.12月～)	スポーツツリズム関連の情報発信	32,587セッション/年 (R4.12.26～R5.3.31)

○デジタル化したら良いと思うスポーツの取り組み

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

